

2011年1月31日

## 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO：柏木齊）では、高校の進路指導・キャリア教育の現状を明らかにするため、進路指導の困難度合い、キャリア教育の進捗状況等についての調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

### ■進路指導を「非常に難しいと感じている」割合、約4割に 2006年以降連続して増加（→P. 3）

高校における進路指導の難しさについて「非常に難しいと感じている」割合が2006年以降連続して増加し38.4%に上った（06年27.4%→08年33.8%→10年38.4%）。「やや難しいと感じている」（54.4%）と回答した学校と合わせると9割以上（92.8%）が、進路指導を「難しい」と感じており、進路指導がより難しくなっている状況がうかがえる。

### ■難しさを感じる要因で増加したのは「高卒就職市場の変化」、「家庭・家族環境の悪化」、「産業・労働・雇用環境の変化」（→P. 4）

難しさを感じる要因で2008年（前回）調査と比較して増加した項目は、「高卒就職市場の変化」（24.0%→45.9% 21.9ポイント増）、「家庭・家族環境の悪化」（50.2%→65.8% 15.6ポイント増）、「産業・労働・雇用環境の変化」（45.6%→53.7% 8.1ポイント増）。今回より「家庭・家族環境の悪化」を「家計面」「家計以外の面」に分割して聞いたところ、「家計面」が62.7%と6割を超える結果となった。

2008年調査はリーマンショックの1ヶ月後に実施したため、影響が限定的だったが、今回調査では、景気の悪化が高校の進路指導にも大きな影響を与えていることがわかった。

### ■2010年度から実施の新学習指導要領における「キャリア教育」への対応状況は、 「対応できている」が6割、「対応できていない」が4割（→P. 6）

2010年度から実施の新学習指導要領における「キャリア教育」への対応状況を尋ねたところ、「対応できていると思う」（「十分対応できていると思う」（7.0%）、「ある程度対応できていると思う」（54.4%）の合計）と回答した学校は61.3%。「対応できていないと思う」（「あまり対応できていないと思う」（33.4%）、「全く対応できていないと思う」（3.7%）の合計）と回答した学校は37.2%に上った。

### ■キャリア教育に対する考えは「生徒にとって有意義」が過半数 一方「教員の負担は相当大きくなりそう」「主旨が見えない」が増加（→P. 7）

キャリア教育に対する教員の考えを聞いたところ、「生徒にとって有意義だと思う」が2006年以降連続して過半数を超えた。2006年・2008年調査と比較して増加した項目は、「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」（06年33.6%→08年39.2%→10年42.9%）、「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず、主旨が見えない」（06年21.5%→08年26.8%→10年29.5%）など、キャリア教育の意義を認めつつも現場の負担感や戸惑いが見受けられた。

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit.jp/support/inquiry\\_press.html](https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html)

## 【調査概要】

## ■調査目的

－全国の全日制高等学校で行われている進路指導・キャリア教育の実態を明らかにする。

## ■調査方法

－質問紙による郵送法

## ■調査対象

－小社『キャリアガイダンス』を発送している全国の全日制高等学校の進路指導主事  
(一部単位制を含む)

## ■調査期間

－2010年10月8日(金)～10月22日(金)  
・11月1日(月)到着分までを入力対象とした。

## ■回収結果

	調査発送数	回収数	有効回答数	有効回答率
2010年	4981	1240	1208	24.3%
2008年	5085	948	910	17.9%
2006年	5258	866	813	15.5%

## 【回答校プロフィール】

## ■高校所在地(全体/単一回答)

	調査数	北海道	東北	関東・甲信越	東海・北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答
2010年:全体	1208	7.9	10.1	29.4	14.6	12.7	12.4	12.2	0.7
2008年:全体	910	9.0	9.7	28.2	16.9	12.1	12.3	11.4	0.3
2006年:全体	813	7.4	10.6	29.9	18.0	11.8	10.7	11.7	—

## ■高校タイプ(全体/単一回答)

	調査数	普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校	その他	無回答
2010年:全体	1208	53.0	20.4	6.5	1.0	5.5	4.5	0.2	3.5	4.2	1.3
2008年:全体	910	53.5	19.8	4.4	1.3	7.4	4.1	0.4	3.5	4.5	1.1
2006年:全体	813	52.3	19.2	6.2	1.2	8.4	5.7	0.5	3.2	3.4	—

## ■大学・短大進学率(全体/単一回答)

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2010年:全体	1208	41.5	21.1	36.7	0.7
2008年:全体	910	37.8	23.1	38.8	0.3
2006年:全体	813	30.8	22.8	46.5	—

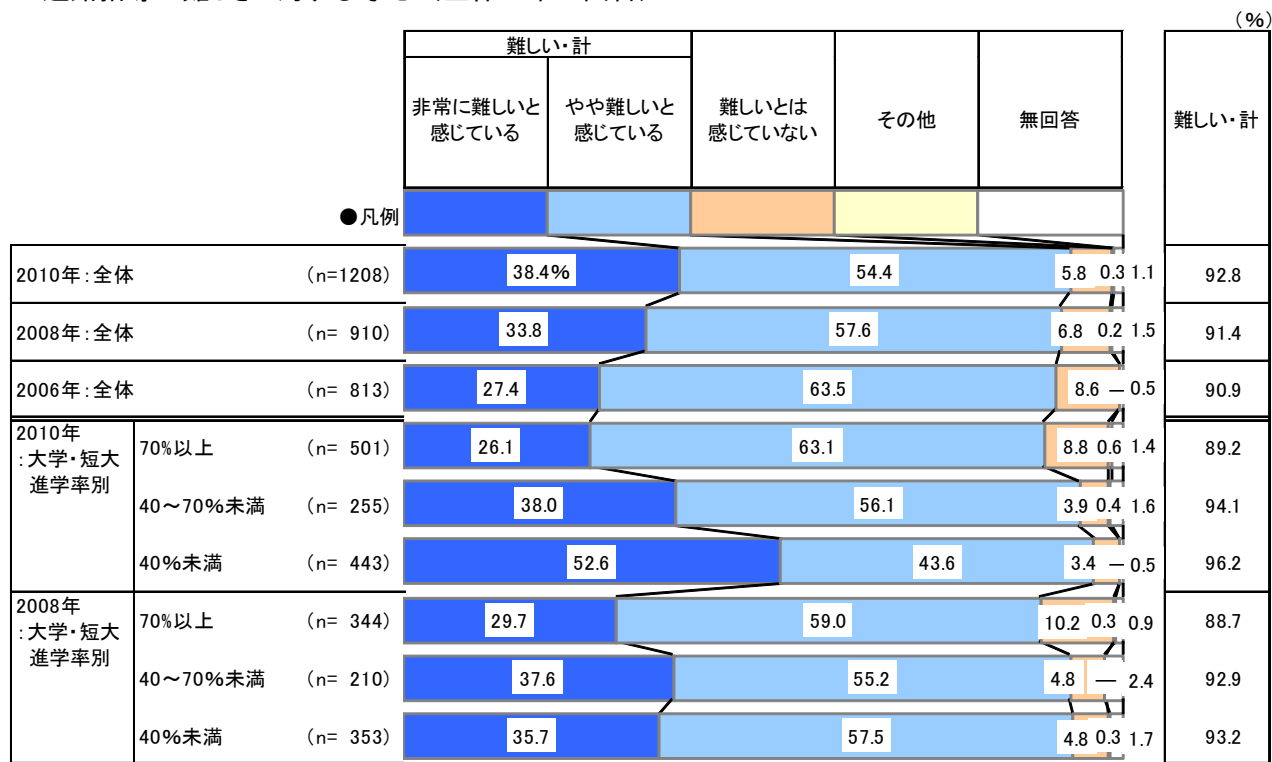
【進路指導】難しさに対する考え

進路指導を「非常に難しいと感じている」割合、約4割に  
2006年以降連続して増加

高校における進路指導の難しさについて「非常に難しいと感じている」割合が2006年以降連続して増加し38.4%に上った(06年27.4%→08年33.8%→10年38.4%)。「やや難しいと感じている」(54.4%)と回答した学校と合わせると9割以上(92.8%)が、進路指導を「難しい」と感じており、進路指導がより難しくなっている状況がうかがえる。

大学・短大進学率別にみると、40%未満において、「非常に難しいと感じている」の割合が大幅に増加している。

■ 進路指導の難しさに対する考え (全体/単一回答)



【進路指導】難しさを感じる要因

難しさを感じる要因で増加したのは

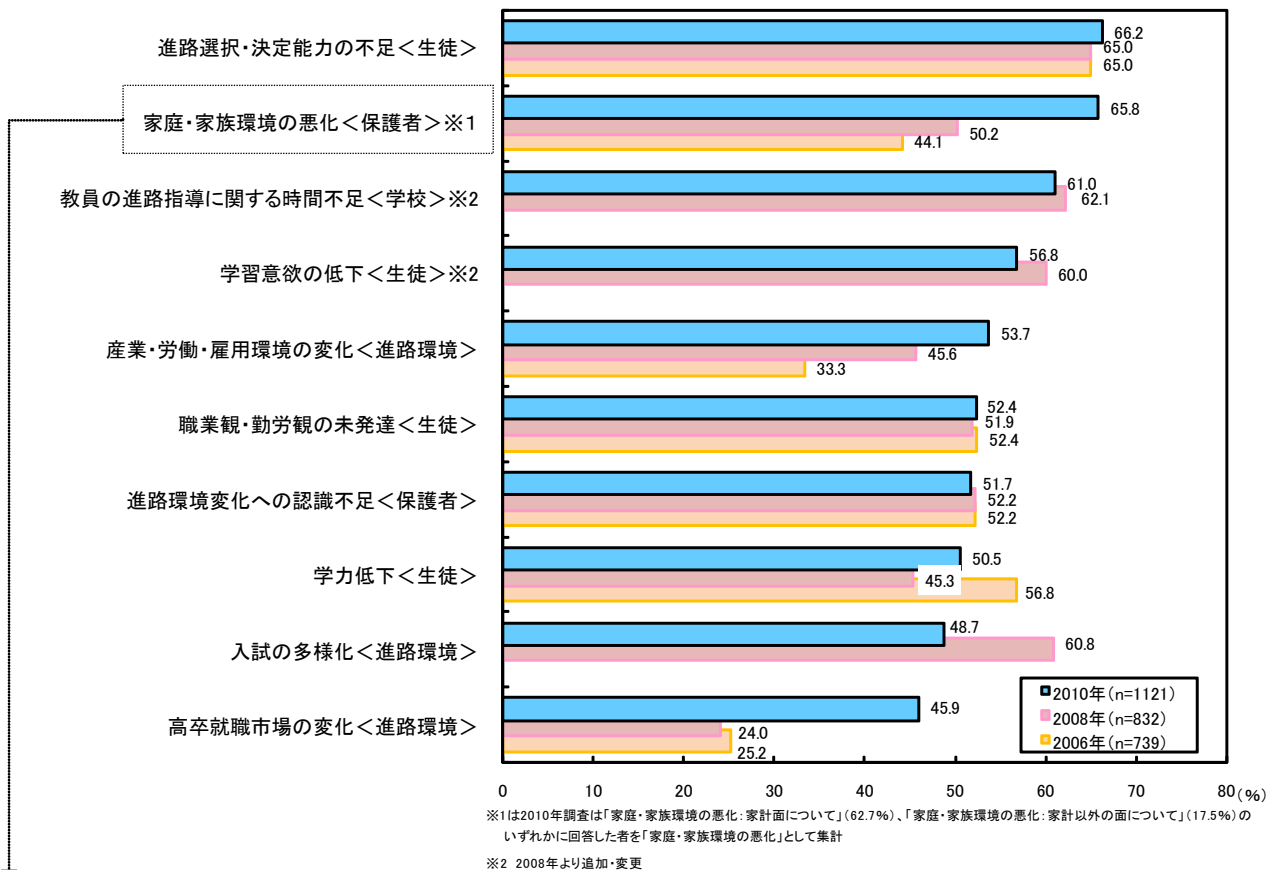
「高卒就職市場の変化」、「家庭・家族環境の悪化」、「産業・労働・雇用環境の変化」

難しさを感じる要因で 2008 年(前回)調査と比較して増加した項目は、「高卒就職市場の変化」(24.0%→45.9% 21.9ポイント増)、「家庭・家族環境の悪化」(50.2%→65.8% 15.6ポイント増)、「産業・労働・雇用環境の変化」(45.6%→53.7% 8.1ポイント増)。今回より「家庭・家族環境の悪化」を「家計面」「家計以外の面」に分割して聞いたところ、「家計面」が 62.7%と 6 割を超える結果となった。

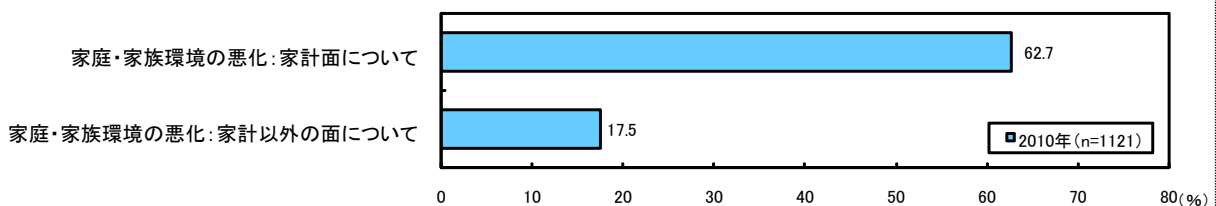
2008 年調査はリーマンショックの1ヶ月後に実施したため、影響が限定的だったが、今回調査では、景気の悪化が高校の進路指導にも大きな影響を与えていることがわかった。

全体の順位をみると、生徒の「進路選択・決定能力の不足」(66.2%)が前回同様1位。「家庭・家族環境の悪化」(65.8%)、「教員の進路指導に関する時間不足」(61.0%)が続く。

■進路指導の難しさの要因 上位10項目 (進路指導は難しいと回答した者のみ/複数回答)



※1 「家庭・家族環境の悪化」の内訳



\* 巻末に調査項目全体の結果を掲載

## 【進路指導】難しさを感じる要因：自由記述

「高卒就職市場の変化」についての自由記述からは、高卒就職における求人が減少し、就職受験機会すら確保できないことや、就職が決まらない生徒の増加など、高卒就職の厳しさがうかがえた。

「家庭・家族環境の悪化」については、家計面を理由とした進路変更や、進学先が決定していても進学を取りやめるケースがよせられた。

「産業・労働・雇用環境の変化」については、大学・短大進学率の低い高校では、主に高卒就職における求人減に関する記述が多かった。一方、大学・短大進学率の高い学校においては、大卒就職の厳しさを受けて、入学して終わりなのではなく、大学へ行くことの意義や、資格取得や就職への意識の高まりが見受けられた。

## 上げ幅の大きい項目

※（）内は所属高校の大学・短大進学率

## 【高卒就職市場の変化】

- ・生徒の望む職業と、企業からの求人の種類のギャップ。やむなく望まない就職をした結果、離職率が増加（40%未満）
- ・求人がなく就職受験をするチャンスが得られない（40%未満）
- ・求人票が昨年より激減している。就職が決まらない生徒が増加（40%未満）

## 【家庭・家族環境の悪化】

- ・家計面について、親の経済状況の悪化により進学をあきらめなければならない生徒の増加（70%以上）
- ・リーマンショック以降著しい家庭環境の変化があり、やむなく進路希望を変更しなくてはならない生徒もいる（40%～70%未満）
- ・進学決定後、入学金や授業料が払えず、取りやめるケースが多くなった（40%未満）
- ・学校のアドバイスでなく、特待生や奨学金など、どう工夫したら学費を低くおさえられるかの金銭面での相談が多い（40%～70%未満）

## 【産業・労働・雇用環境の変化】

- ・経済、特に雇用状況の悪化により、本人の適性、能力にかかわらず、資格取得や就職に有利といった条件を求める傾向が強い（70%以上）
- ・2、3年前の社会に対する認識が、もう古くさくなっていたりして、数年後の予測も大変立てづらい（70%以上）
- ・周囲の雇用状況から、大学へ行くことの意義、つまり進学することで就職へとつながらないことからくる意欲の低下（40%～70%未満）
- ・求人数の激減（40%未満）
- ・産業構造の空洞化など、日々変わる社会情勢の為、将来の職業や人生設計を含めた進路指導が困難になってきた（40%未満）

## 【キャリア教育】新学習指導要領への対応

2010年度から実施の新学習指導要領における「キャリア教育」への対応状況は、「対応できている」が6割、「対応できていない」が4割

2010年度から実施の新学習指導要領における「キャリア教育」への対応状況を尋ねたところ、「対応できていると思う」（「十分対応できていると思う」（7.0%）、「ある程度対応できていると思う」（54.4%）の合計）と回答した学校は61.3%。「対応できていないと思う」（「あまり対応できていないと思う」（33.4%）、「全く対応できていないと思う」（3.7%）の合計）と回答した学校は37.2%であった。

## ■新学習指導要領に対するキャリア教育の対応状況（全体／単一回答）

		n	できている・計		できていない・計		無回答	割合	できている・計	できていない・計
			十分対応できていると思う	ある程度対応できていると思う	あまり対応できていないと思う	全く対応できていないと思う				
●凡例										
2010年：全体		(n=1208)	7.0%	54.4	33.4	3.7	1.5		61.3	37.2
大学・短大 進学率別	70%以上	(n= 501)	8.2	52.5	33.5	3.6	2.2		60.7	37.1
	40～70%未満	(n= 255)	7.5	51.4	36.5	3.5	1.2		58.8	40.0
	40%未満	(n= 443)	5.4	57.8	31.8	4.1	0.9		63.2	35.9

□対応状況についての自由記述 ※（）内は所属高校の大学・短大進学率

## 【十分対応できていると思う】

・全学年を通して、各学年で主体的、計画的にキャリア教育を進めている。進路指導部だけでなく、他の部署、全学年、各教科等連携が十分にとれている（40%～70%未満）

## 【ある程度対応できている】

・総合的な学習の時間でキャリア教育の視点に立った内容を実践しており、すべての教育活動をキャリア教育の視点で位置づけている。ただし、生徒に対する効果はまだ十分とはいえない（70%以上）  
・現在の進路指導の中にキャリア教育の要素が入っていると考えられるから（40%未満）

## 【あまり対応できていないと思う】

・分掌間での連携が不十分で、学校全体で組織的に指導しているとはいえない（40%～70%未満）  
・キャリア教育の重要性は、頭では理解しているものの、学校教育の様々な場面でそれを意識した取り組みができていない（40%未満）

## 【全く対応できていないと思う】

・教育課程や類型等が大きく変更されるため、進路関係は後回しになっている（40%未満）  
・そこまで手がまわりません。忙しすぎて（40%～70%未満）  
・具体的な対応ができていない（70%以上）

## 注)新学習指導要領について

新学習指導要領は2009年3月9日に公示。総則に「キャリア教育」を推進することが初めて明記された。総則は今年度(平成22年度)から、実施することになっている。

調査票には、新学習指導要領について以下のとおりの注釈を記載した。

<新学習指導要領の記載内容例> 総則 第5款5(4)

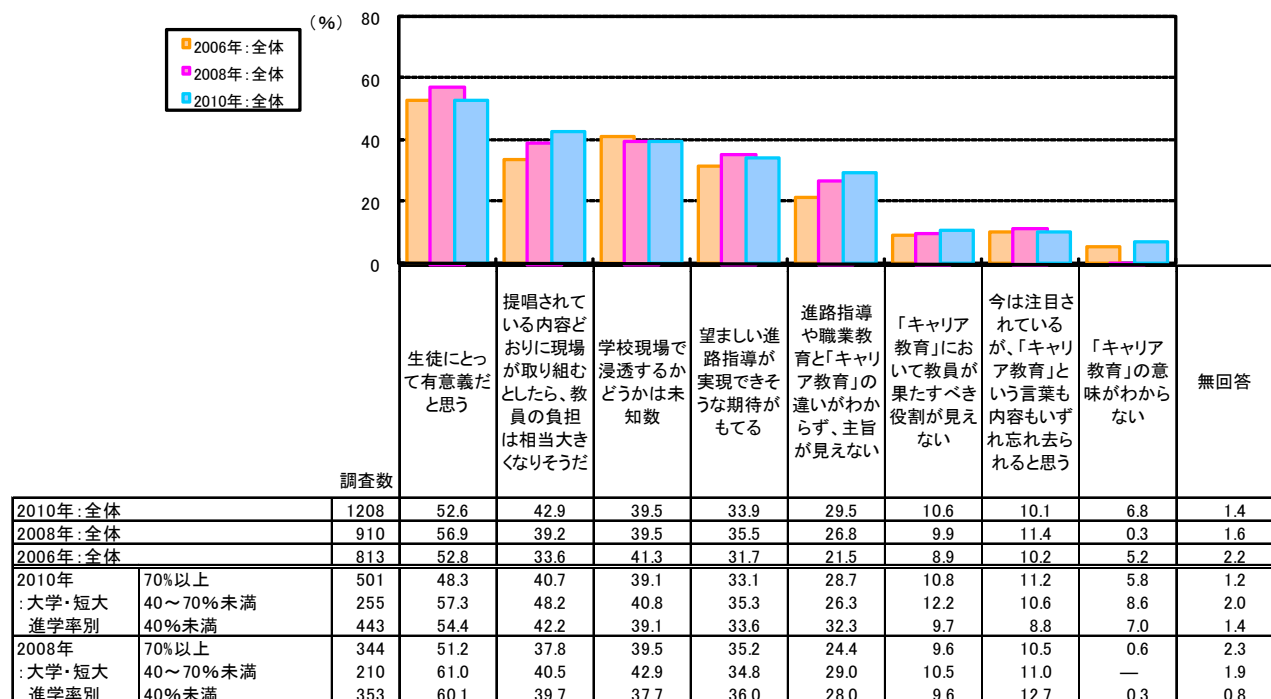
生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること

## 【キャリア教育】キャリア教育に対する考え

### キャリア教育に対する考えは「生徒にとって有意義」が過半数 一方「教員の負担は相当大きくなりそう」「主旨が見えない」が増加

キャリア教育に対する教員の考えを聞いたところ、「生徒にとって有意義だと思う」が2006年以降連続して過半数を超えた。2006年・2008年調査と比較して増加した項目は、「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」（06年33.6%→08年39.2%→10年42.9%）、「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず、主旨が見えない」（06年21.5%→08年26.8%→10年29.5%）など、キャリア教育の意義を認めつつも現場の負担感や戸惑いが見受けられた。

## ■ キャリア教育に対する考え（全体／複数回答）



□キャリア教育に対する考えについての自由記述 ※（）内は所属高校の大学・短大進学率

## 【生徒にとって有意義】

- ・大学入学をゴールにするのではなく、その先まで考えることの大切さがわかる（70%以上）
- ・単なる進学、就職目的だけでは、生徒のモチベーションを高められない（40%～70%未満）
- ・目標をもって上級学校に進むことは、中退防止という消極的理由以上に必要だと考えるため（40%～70%未満）
- ・社会人になる準備としての様々な能力が身につくと思う（40%未満）

## 【教員の負担は相当大きくなりそうだ】

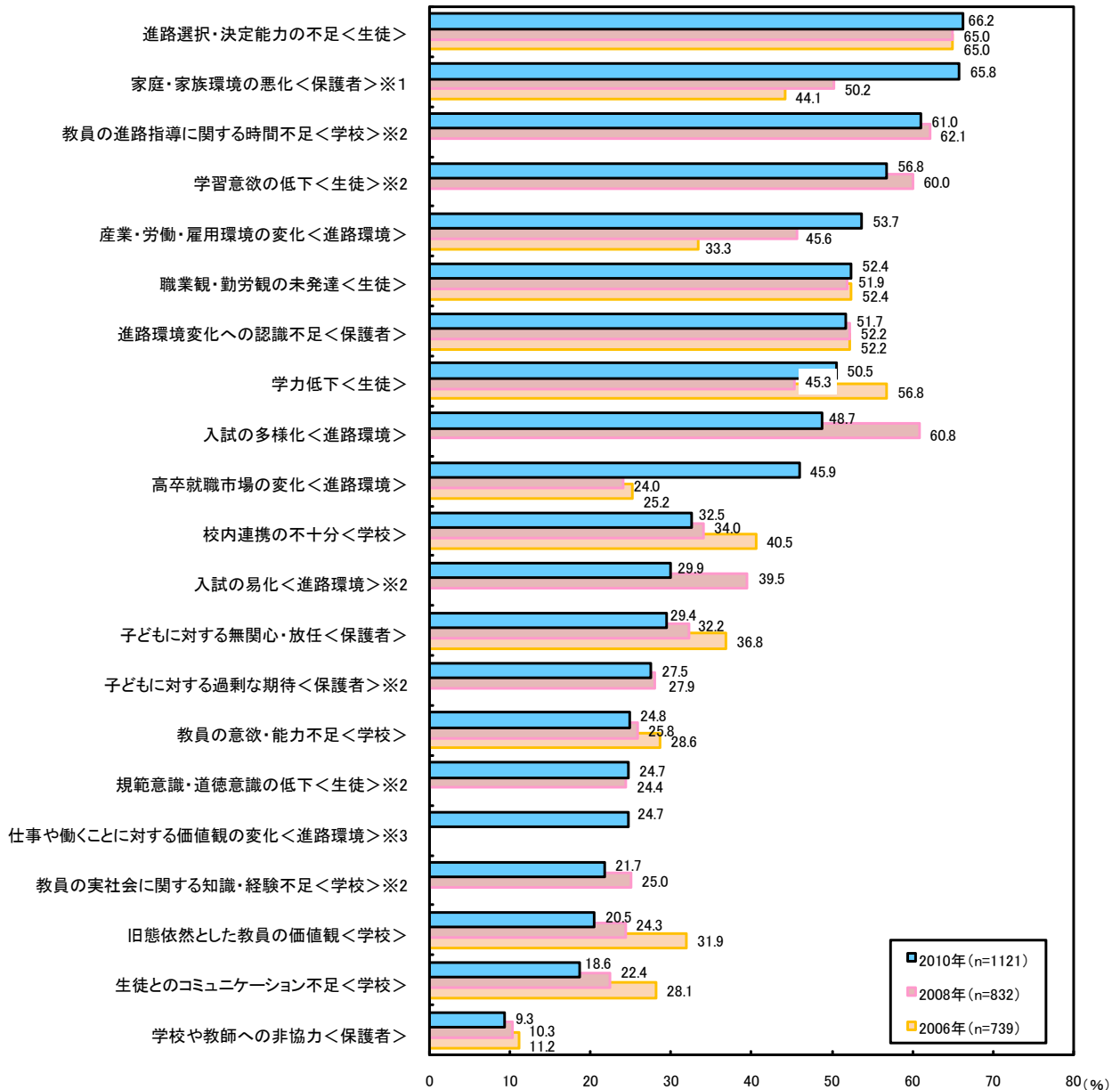
- ・やりたいことはたくさんあるが、時間がない（40%未満）
- ・有意義ではあるが現状でも担当部署は過剰労働を余儀なくされているから（40%～70%未満）
- ・その主旨は理解できるが実施のための具体的な方策を持っていない（70%以上）

## 【違いがわからず主旨が見えない】

- ・進路指導との違いを理解するのが難しい（70%以上）
- ・職業教育とキャリア教育の違いがなかなか理解できない（40%～70%未満）
- ・具体的な取り組み内容がよくわからない（40%未満）

＜参考＞【進路指導】難しさを感じる要因：全項目

■進路指導の難しさの要因（進路指導は難しいと回答した者のみ／複数回答）



※1は2010年調査は「家庭・家族環境の悪化：家計面について」(62.7%)、「家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について」(17.5%)のいずれかに回答した者を「家庭・家族環境の悪化」として集計

※2 2008年より追加・変更

※3 2010年より追加・変更